

ドイツ・リュウゲン島の栈橋

1 リュウゲン島の現況と特色

■リュウゲン島の概要

- ・バルト海に浮かぶドイツ国内最大の島。
- ・ドイツ北東部（旧東ドイツ領内）のメクレンブルク＝フォアポンメルン州に属する。
- ・ベルリン(Berlin)のほぼ真北、直線距離で約 210km。
- ・ベルリンから車で3～4時間、鉄道でも同程度の時間距離。
- ・本土側のシュトラールズント（かつてのハンザ同盟都市として有名、世界遺産）と道路および鉄道で結ばれている。
- ・産業は、観光業を中心として、農業、漁業、港湾業など。



図1 リュウゲン島全体図
(引用：Google Map)

表1 リュウゲン島の主な街

	ベルゲン Bergen	ザスニッツ Sassnitz	ビンツ Binz	プトゥブス Putbus	ゼリン Sellin	ゲーレン Göhren
人口	13,555 人	9,435 人	5,311 人	4,396 人	2,622 人	1,229 人
備考	中心都市 交通の要衝	国際港	栈橋 観光の中心	計画都市	栈橋	栈橋

表2 日本の島との比較

() は推定値

	リュウゲン島	佐渡島	奄美大島	淡路島
面積	935 km ²	855 km ²	712 km ²	590 km ²
人口	64,000 人	75,000 人	75,000 人	162,000 人
のべ宿泊者数	600 万人	(85 万人)	(200 万人)	130 万人
観光客数	(120 万人)	53 万人	77 万人	1300 万人
平均宿泊日数	5.1 泊	1.6 泊	2.6 泊	(0.1 泊)

■リュウゲン島の歴史

～1815	スウェーデン領	・農村と漁村を中心とする島
1815～	プロセイン王国時代	・伯爵ヴィルヘルム・マルテ I 世 (Wilhelm Malte I, 1783-1854) がリゾート都市を計画 → プトゥブス (1830 頃) ・蒸気船の就航 → バルト海沿岸の街に海岸リゾート開発
1871～	ドイツ帝国時代	・街を結ぶ蒸気鉄道が開通 ・着船用の栈橋が多数建設
1933～	ナチス・ドイツ政権時代	・ビンツの北側に巨大な海浜保養施設「プローラ (Prora)」建設
1945～	東ドイツ時代	・海岸リゾートに労働組合員のための休暇センターやキャンプ場などを開設
1990～	ドイツ再統一後	・栈橋のリニューアルなどの観光政策により西側からの観光客が急増



図2 プトゥブス (引用: Google Map)



図3 プロローラ (出典: Wikipedia)

■ リューゲン島あれこれ

オストゼーバード (Ostseebad)

- ・ゼーバード (seebad) = ドイツspa協会が定める高品質の医療・治療を提供できる海岸保養地
- ・温泉・温浴や入浴剤による治療、クナイプ療法と呼ばれる自然療法など
- ・ドイツでは、バルト海沿岸の“オストゼーバード”と北海に面した“ノルトゼーバード”

リューゲン狭軌鉄道 Rügensche Kleinbahn (RüKB)

- ・1895年にプトゥブス～ビンツ間が開業
- ・現在はプトゥブスからベルゲン、ビンツ、ゼリンを経由し、ゲーレンまでを結んでいる。

BADERBAHN (ペーダーバーン)

- ・ビンツ～ゼリン～バーベ (Baabe) を結ぶ“青い電車”と呼ばれるバス
- ・ツーリストカードがあれば無料で利用可能である。

遊覧船

- ・定期運航コース: ザスニッツ港と海岸リゾートの桟橋間を往復するコース、白亜断崖を海から眺めるコース、リューゲン島を1周するコース (6月から9月)

シュトラント・コルプ (Strandkorb、ドイツ型ビーチチェア)

- ・ドイツ語で「シュトラント」は砂浜、「コルプ」はバスケットを意味する。
- ・1882年ロストックで、女性リュウマチ患者の為のビーチチェアとして作ったのが始まり。

スパ税 (Kurabgabe)

- ・公共施設の整備や運営に使われる観光税。(ゼリンのスパ税 1.8~2.8€, 季節による)
- ・ホテルなどでツーリストカード (Kurkarte) を購入することで支払う。
- ・観光情報や公衆トイレの提供、レスキューサービスや桟橋のメンテナンス、ビーチの清掃など。



写真1 リューゲン狭軌鉄道

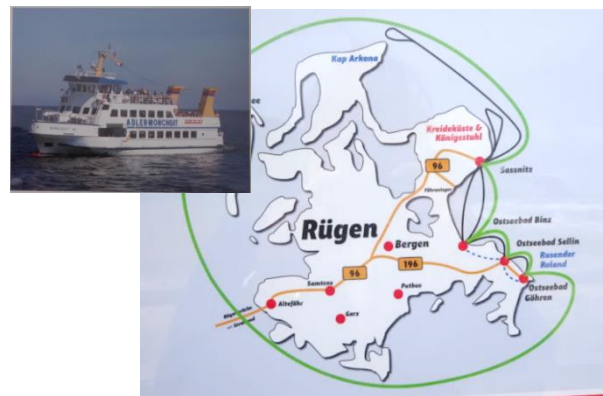


写真2 遊覧船と就航コース

2 ゼリン栈橋 (Sellin Pier)



供用開始	1906年 (最初の栈橋) 1998年 (現在の栈橋)
栈橋延長	394m

ゼリン栈橋はリューゲン島で2番目に大きな海岸リゾート・ゼリンに建設された栈橋である。1880年頃にビーチリゾートとして注目されるようになり、1900年以降の開発計画の一環で、1906年に最初の栈橋が建設された。

栈橋は度々の海水被害等により破壊・再建されており、現在の栈橋は東西ドイツ統一後の1991年から本格的な再建が始まり、1998年に供用された。

延長は394mあり、リューゲン島で最長の栈橋である。また、栈橋上にはレストランが営業している。夜になるとレストラン部分がライトアップされ、夜になっても夜景を楽しむ人々で賑わっていた。



写真3 1929年の海水被害



写真4 夜のゼリン栈橋

3 ビンツ栈橋 (Binz Pier)



供用開始	1902年 (最初の栈橋) 1994年 (現在の栈橋)
栈橋延長	370m



図4 初代ビンツ栈橋
(出典：Wikipedia)

ビンツ栈橋はリューゲン島最大の海岸リゾート・ビンツに建設された栈橋である。1902年に最初の栈橋が完成し、シュチェチン（Szczecin、ポーランド）～ザスニッツ間の客船がビンツに直接接岸できるようになり、町の発展に寄与した。

初代栈橋にはレストランが設けられていたが、ビンツ栈橋も海氷被害等に破壊・再建を繰り返している。現在の栈橋は1994年に再建されたものであるが、栈橋上にレストランは設置されていない。ビンツの歴史は1318年に始まったとされており、視察時は700周年を記念した装飾等が施され、多くの人々で賑わっていた。

4 ゲーレン栈橋（Gohren Pier）



供用開始	1898年（最初の栈橋） 1993年（現在の栈橋）
栈橋延長	350m

ゲーレンは自然保護区のメンシュガト半島や南北にあるビーチを観光資源とした海岸リゾートで、ゲーレン栈橋は北側のビーチに建設された栈橋である。最初の栈橋は、南側のビーチに延長1,002mで建設された。北側のビーチには1912年に延長126mの栈橋が建設され1950年代まで壊滅的な被害がなく利用された。現在の栈橋は、1993年に再建されたものであり、先端部は観光船の発着場として利用されている。



写真5 多くの人で賑わうカフェ



写真6 700周年記念の装飾



図5 栈橋位置図（引用：Google Map）



写真7 観光船と栈橋

（引用：<https://www.ostsee-cafe.de/>）